

青陵中学校のESD活動

<活動の概要>

- ・本校は、「豊かな知性をみがく」「協調と思いやりの精神を養う」「たくましい心身を鍛える」という教育目標のもとに、ESDを持続可能な社会作りの根幹として捉え、ESDの実践を通して主体的に探究し、思いや学びを高め合える生徒の力の育成を目標とした。
- ・具体的には、応援団活動、夏みかん並木の保全、学校行事の推進を柱に①応援団に関わる活動②夏みかん並木に関わる教育③総合的な学習の時間における防災(第1学年)、キャリア教育(第2学年)、SDGsの17の目標(第3学年)の学習を行った。

・活動の実際

① 応援団に関わる活動 (有志生徒)

青陵中学校では「伝統を引き継ぐこと」「愛校心を高めること」「青陵中生としての誇りをもつこと」をねらいとし、応援団活動が行われている。応援団は1年生の5月、希望者による体験入団があり、1学期から練習がスタートする。最後は3年生の青陵祭で活動を終える。青陵中学校の応援団は平成4年から始まり、今年で32年めとなる。体育祭の応援団演舞だけでなく、平成23年度から、演舞も行われるようになった。演舞は、青陵祭の目玉となる一方で、東日本大震災で被災した東北の方々へエールを送ろうという思いから始まった。

今後は、総体や新人戦にむけた選手激励会でエールを送ることが応援団の中心活動になっていく。見ている人に勇気を与えられる姿に期待したい。



② 夏みかん並木に関わる教育 (委員会)

青陵中学校では、毎年1月に夏みかん収穫作業が行われる。青陵街道沿いに植えられた約50本の夏みかん並木は、昭和35年の5月に、「郷土への奉仕活動を！」をテーマに当時の生徒会役員の発案で、校区の青陵街道に産地でもある香り豊かな夏みかんを植えたのが始まりである。このことがテレビ番組で紹介され、詩人のサトウ・ハチローさんが「きいろが きいろが かがやきになる」という夏みかんの詩を書いてくださった。先輩方による地域の自然を愛し、緑を育てる活動を引き継ぐ夏みかん並木は、当時の緑化委員会を中心に育てられてきた。現在は生徒会が中心となりボランティアを募集し、環境委員会が協力をして収穫をしている。収穫した夏みかんは、地域の福祉施設に届けたり、飯田東中学校に届けたりして、地域や他校との交流に役立てている



夏みかんの収穫

③ 総合的な学習の時間 (生徒)

- 第1学年「防災」－助け合える青陵校区をつくっていくために－
 - 福祉について考えよう
 - 水害から命を守ろう
 - 職業にズームイン
- 第2学年「職業(働く)」－プロフェッショナルとは～社会の一員になるための第一歩を踏み出そう～
 - 「働く人」を見つめよう
 - 社会の一員としてのマナーを学ぼう
 - 未来のためにできることを実践
 - 私のこれから歩む道
- 第3学年「国際協力」－未来のために私たちができること－
 - 私と貧困のつながり
 - わたしができる国際協力活動
 - 卒業後の自分の姿を描こう